

## 【概況】<中国コロナウイルス景気後退懸念~世界各国での金融引き締め>

●28日、中国国家衛生健康委員会の28日の発表によると、中国本土で27日に報告された新型コロナウイルスの新規感染者数は4日連続で1000人を超えました。前週には同国内で感染拡大防止策の緩和が検討されていると報じられ、エネルギー需要の回復が期待されていたがムードが一転し、中国の景気先行き懸念が台頭し、需要減退につながるとの連想から売りが優勢となり相場は87.9ドルへ下落しました。

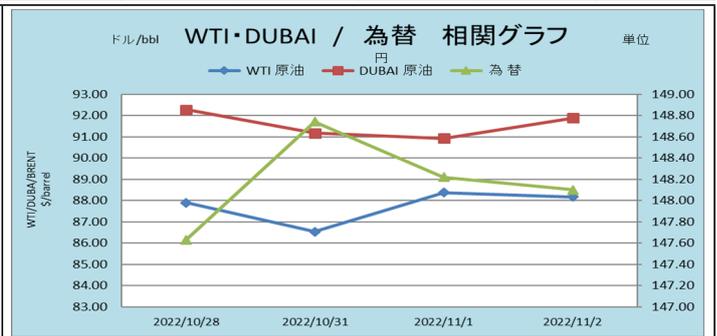
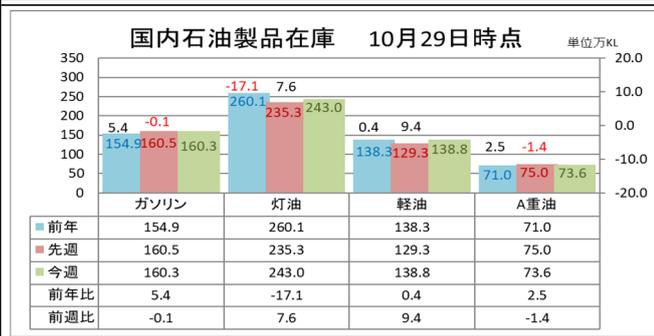
●31日、中国国家統計局が31日に発表した10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.2となり、節目の50を2カ月ぶりに割り込みました。新型コロナウイルスの感染拡大を徹底的に抑える「ゼロコロナ」政策継続で生産や新規受注が打撃を受け、同国の景気後退懸念に伴うエネルギー需要減少への警戒感が強まり、売りが優勢となり相場は86.53ドルへ続落しました。

●1日、前日までに売られた反動で安値拾いの買いや、月初に伴う持ち高調整目的の買いが入りました。一方、著名エコノミストによる1日のツイッター投稿をきっかけに、中国が来年3月に新型コロナウイルス感染拡大防止のための規制解除に向けて委員会を設置したとのうわさが拡散し、これを受けて、国内の景気回復に伴うエネルギー需要見通しに期待が広がり、相場は88.37ドルへ反発しました。

●2日、米エネルギー情報局(EIA)が2日朝方に発表した週報によると、10月22~28日までの1週間の米原油在庫は、前週比310万バレル減と市場予想(40万バレル増)に反して大幅な取り崩しとなりました。また、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルは前日、イランがサウジアラビアへの攻撃を計画している可能性があるとの報道。需給が引き締まるとの見方が強まり、買いが優先となり相場は90.00ドルへ続伸しました。

●3日、米連邦準備制度理事会は2日、連邦公開市場委員会(FOMC)で4会合連続となる75ベースポイント(bp)の大幅利上げを決定。パウエルFRB議長はFOMC後の記者会見で、利上げの一時停止を考へるのは「時期尚早」との認識を示し、利上げ局面が長期化するとの見方が広がりました。世界各国での積極的な金融引き締め策を背景に景気が落ち込めば、エネルギー需給も緩むとの連想から売りが優勢となり相場は88.17ドルへ反落しました。

11月4日 16:00現在 WTI原油 90.16ドル 為替 1ドル 149.34円



	次回元売変動予測	
	11/10~	元売変動予測
ガソリン	→	+0.1
灯油	→	+0.1
軽油	→	+0.1
A重油	→	+0.1
LSA	→	+0.1

※原油コスト「-0.5円」  
 ※激変緩和補助金「-35.7円」  
 ※現時点での予測です。

## 【製品卸価格】<元売月間玉と市況連動玉を持つ業者が月初より販売強化しスタートダッシュ>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストはサウジ調整金込みで、「-2.5円」、補助金は、「-36.3円」、都合「-2.4円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの31日時点の小売価格平均は169.1円となっております。月初より元売月間玉と市況連動玉を持つ業者がスタートダッシュをかけ販売を強めています。

《11月5日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「-0.5円」、激変緩和補助金は「-35.7円」の見込みで、都合「+0.1円」の値上げ改定の予測となっています。月初より販売を強めていた元売月間玉と市況連動玉を持つ業者は、1日・2日の原油高騰によりいったん価格を値上げし様子見をしていましたが、3日・4日の原油価格下落により次回の価格改定での大幅な値上げは無いと見て、提示価格を下げ再び販売攻勢を強めています。今月も、ガソリンについては、輸入玉が安く入着するため商社の油槽所では、製油所より価格を安く設定し販売の主導権を握っています。原油高止まりにより消費者の財布のひもも硬くなっており石油製品の出荷はあまり芳しくありません。月末近くまで販売枠を残したくないというマインドが働き早めの枠消化を心掛ける業者が多いため、販売価格については、非常に厳しい状況が続くと予想されます。

## 【次世代エネルギー】<日本触媒とトクヤマによる「高圧方式に適した大型アルカリ水電解装置及びセパレータの開発事業」>

株式会社日本触媒(本社:大阪市中央区)と株式会社トクヤマ(本部:東京都千代田区)は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構による「燃料電池の多用途活用実現技術開発」として、「高圧方式に適した大型アルカリ水電解装置及びセパレータの開発事業」が採択されました。高圧型アルカリ水電解装置(以下、高圧AWE)とは、セパレータで仕切られたセルにアルカリ水溶液を供給し通電することで水素・酸素を製造する装置です。水素は次世代エネルギーとして注目されており、再生可能エネルギー由来の電力で作られるグリーン水素には世界中で大きな期待が寄せられています。本事業は、日本触媒による高圧方式にも適した大型セパレータの開発と、トクヤマによるセパレータ性能を最大限発揮する電解槽の内部構造開発を掛け合わせ、世界に通用する競争力ある高圧AWEの開発を目指すものです。日本触媒が開発するセパレータをトクヤマが開発する高圧AWEのパイロット設備に組み込み、研究開発を進められます。トクヤマは、食塩電解事業で長年培った電解装置関連のオリジナル技術を、高圧AWEにおいても活用し、次世代のエネルギー供給に役立てるべく、取り組みを加速させてまいります。日本触媒は、独自の有機無機複合技術とシート成形技術を活用した本セパレータは、中長期的に成長が見込まれるグリーン水素市場を念頭に開発を進めており、これまでに1.2m幅までのセパレータの開発に成功しています。本事業では高圧方式にも対応した大型セパレータを開発することで、水素製造の効率化に寄与し、グリーン水素社会の実現を後押しされるとの事です。

[出典] ① <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000050.000054162.html>